

藤沢市教育委員会定例会（４月）会議録

日 時 2006年4月14日（金）午後2時

場 所 東館2階教育委員会会議室

1 開 会

2 会議録署名委員の決定

3 前回会議録の確認

4 教育長報告

- (1) 平成18年2月藤沢市議会定例会の開催結果について

5 議 題

- (1) 委員長の選挙について

- (2) 委員長職務代理者の指定について

6 議 事

- (1) 議案第1号 平成18年度教育施設整備に係る工事計画の策定について

- (2) 議案第2号 藤沢市青少年相談センター運営協議会委員の委嘱及び任命について

7 その他

- (1) 第9回「学習意識調査」報告書について

- (2) 平成18年度重要・主要事業の指定について

8 閉 会

出席委員

1 番 小 野 晴 弘
2 番 數 野 隆 人
3 番 開 沼 佳 子
4 番 平 岡 法 子
5 番 川 島 一 明

出席事務局職員

教育総務部長	落 合 英 雄	生涯学習部長	高 木 三 広
教育総務部参事	小 島 隆	生涯学習部担当部長	浅 木 良 一
教育総務部参事	城 田 修 治	生涯学習部参事	渡 邊 忠 雄
教育総務部参事	飯 島 広 美	生涯学習部参事	武 清
学務課長	田 中 一 次	生涯学習部参事	植 木 正 敏
保健給食課長	廣 野 賢 二	生涯学習部参事	熊 谷 正 明
教育文化センター長	松 本 康 孝	生涯学習課主幹	田 代 勉
教育文化センター研究主事	佐々木 貴	生涯学習課主幹	中 嶋 登
書 記	上 野 進	書 記	松 森 裕 二

午後2時00分 開会

開沼委員長

ただいまから藤沢市教育委員会4月定例会を開会いたします。

5日の入学式はあいにくの雨で、新入生たちは新しい運動靴が濡れてしまい、とても心細そうでしたが、道に立ってくださった地域の方々、保護者の皆様、職員の皆様は雨を一切気にすることなく一生懸命誘導してくださり、その姿を大変心強く拝見いたしました。おそらく新入生、保護者の皆様も新しいスタートに当たって頼もしく感じられたのではないかと思います。そして、つつがなく新年度がスタートしたと伺っております。今年度もよろしく願いいたします。

次に、本年4月1日付の人事異動によりまして、書記の事務局職員が異動したことに伴いまして、藤沢市教育委員会会議規則第14条第2項の規定により、書記については委員長が事務局職員より教育長の推選する者を指名するとなっておりますので、小野教育長にその推選をお願いしたいと思います。

小野教育長

藤沢市教育委員会会議規則第14条第2項の規定により、藤沢市教育委員会書記に教育総務部教育総務課上野進主幹、同じく教育総務課松森裕二主査を推選いたします。

開沼委員長

ただいま教育長から推選がありました教育総務部教育総務課上野主幹及び松森主査を新たに書記に指名いたします。よろしく願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

開沼委員長

それでは、本日の日程に移ります。

本日の会議録に署名する委員は4番・平岡委員、5番・川島委員にお願いしたいと思います。ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

開沼委員長

それでは、本日の会議録に署名する委員は4番・平岡委員、5番・川島委員にお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

開沼委員長

続きまして、前回の会議録の確認をお願いいたします。何かありますか。特にありませんので、このとおり確認いたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

小野委員

本日の議題(1)委員長の選挙について、及び(2)委員長職務代理者の指定については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項ただし書に規定いたします人事に関する事件に当たると考え、非公開での審議とするよう発議いたします。

開沼委員長

ただいま小野委員から議題(1)委員長の選挙について、及び議題(2)委員長職務代理者の指名については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項ただし書の規定により、非公開の審議を要請する発議が

ありましたので、同条第7項の規定によりまして、直ちに採決を行います。
ただいまの発議に対しまして賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

開沼委員長 賛成5名。よって地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項ただし書の規定によりまして、出席委員の3分の2以上の多数で議決いたしましたので、議題(1)委員長の選挙について、及び議題(2)委員長職務代理者の指定については、後ほど非公開での審議とさせていただきます。
÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

開沼委員長 続きまして、教育長報告をお願いいたします。

小野委員 それでは、平成18年2月藤沢市議会定例会の開催結果について、ご報告申し上げます。2月市議会定例会は、2月17日から3月17日までの29日間開催されました。2月の教育委員会定例会でご審議いただきました教育財産の取得に関する議案及び指定管理者の指定に係る2議案につきましては、本会議におきまして可決されました。

また、平成17年藤沢市一般会計補正予算につきましては、秋葉台子供の家の用地買戻し等を含む11事業についても総務常任委員会に付託され、討論・採決の結果、賛成多数で可決すべきものとされ、その後、本会議におきまして可決されました。

次に、平成18年度藤沢市一般会計予算につきましては、予算等特別委員会に付託され、新入生サポート事業、巡回教育相談事業、学校安全対策事業、奨学金制度、子ども読書活動推進事業、長屋門移築復原事業、ビーチバレージャパン20回記念大会など教育委員会としての重要な施策に係る質疑が行われ、討論・採決の結果、賛成多数で可決すべきものとされ、その後本会議におきまして可決されました。

次に、文教常任委員会についてご報告いたします。今回は報告案件のみとなりますが、教育委員会3月定例会でご報告いたしました「生涯学習ふじさわプラン」基本計画の改定について報告いたしました。

続きまして、代表質問についてご報告いたします。はじめに藤沢新政会の栗原義夫議員でございますが、「教育行政について」という件名で11項目の要旨でご質問がございました。要旨1の「三者連携事業について」の中で三者連携事業の今後の取り組みへのご質問には、学校・家庭・地域の三者がそれぞれの役割分担を意識し、地域内のさまざまな組織との連携を強め、互いに不足している面を補完しながら、児童生徒等を取り巻く課題の解決ができるよう、より積極的な支援を行って行くことを答弁いたしました。

要旨2の「情報教育の推進について」で、校内LANによる教育効果についてのご質問には、授業の中で必要な情報を視覚に訴えることで、生徒の興

味・関心を高め、授業への理解を深めることができたり、複数のクラスで同時にパソコンを使った授業ができるなど、さまざまな効果や成果が上がっていることを答弁いたしました。

次に、要旨3の「英語教育の充実について」で、外国人講師の充実が図られた場合、どのような効果が期待できるのかというご質問には、英語の必要性を実感し、学習意欲が高まり、より興味・関心を持って授業に取り組むようになる。英語でコミュニケーションできたという達成感、満足感が得られ、実際の場面で物おじせずに話したりできるようになる。生徒も教師も英語で話したり聞いたりする機会が増え、コミュニケーション力が高まる、異なる文化を共有でき、異文化に興味を持つようになる。自然な発音が身につく、特に「聞く」力がつくなど、学習意欲の喚起、コミュニケーション能力の向上、異文化への興味・関心の高まりなど、学校からはさまざまな面での効果が報告されております旨を答弁いたしました。

次に、要旨4の「学校非常通報システムの拡充について」のご質問には、発信器の数が増え、多くの場所をカバーできることと、発信された場所を学校で即座に特定することができる等の新システムの特徴について答弁いたしました。

次に、要旨5の「放課後児童対策について」で、児童クラブの今後の方向性についてのご質問には、平成18年度に複数小学校区で1カ所となっていた小学校区が1校解消されることから、残る複数小学校区1カ所を早期の課題としてとらえ、1小学校区1児童クラブの実現に向け対応してまいります旨を答弁いたしました。

次に、要旨6の「スポーツ振興を図る施設整備について」で、どのような規模の野球場整備を計画されているのかのご質問には、一般用野球場2面の規模で、平成19年4月から使用開始できるよう整備する旨を答弁いたしました。

次に、要旨7の「校舎などの耐震化対策について」で、小・中学校校舎及び保育園、幼稚園の耐震化計画の進捗状況及び今後の計画についてのご質問には、今後の耐震補強工事への取り組みや私立幼稚園への助成につきまして答弁いたしました。

次に、要旨8の「教職員の指導育成について」で、新採用教員等若い教員の育成のためにどのように取り組んでいくのかのご質問には、採用からの3年間にわたる取り組みや、他市に比べて手厚い研修体制を整えていることを答弁いたしました。

次に、要旨9の「道徳教育について」で、道徳教育の必要性についてどう考えているのかのご質問には、子どもたちに社会性のある価値観やモラルを

身につけさせ、規範意識を育てることが求められており、道徳教育の必要性はさらに増していると認識しておりますことを答弁いたしました。

次に、要旨 10 の「教育相談業務の改善について」で、相談体制の一本化、窓口の一本化についてのご質問には、利用者のさまざまなニーズに対して迅速で適切な対応を図り、さらなる相談業務内容の充実及び利便性を目指して検討を進めていることを答弁いたしました。

最後に、要旨 11 の「特別支援教育の今後について」で、市立養護学校を持つ藤沢市の独自性という点からどう考えるかのご質問には、藤沢市の新採用教員に対して、指導者の立場で障害のある子どもと接するという他市では得られない貴重な機会を提供したり、小・中学校と養護学校との間の人事交流による障害児教育についての理解を小・中学校に広めていくなど、今後もしっかりとしたメリットを生かしていくことを答弁いたしました。

次に、立志の会の海老根靖典議員でございますが、「豊かな心を育み湘南の地域文化を発信するまちについて」という件名で、6 項目の要旨についてご質問がございました。要旨 1「博物館・美術館構想について」で、博物館・美術館の役割とあり方についてのご質問には、全市民にとっての、まさしく生涯学習の拠点として大きな役割を担う施設であると認識しておりますが、現在の財政状況の厳しい中、直ちに博物館の建設並びに美術館の構想についての考えを明示できない旨を答弁いたしました。

次に、要旨 2「市の基本的教育姿勢について」で、杉並師範館制度また民間校長の登用を含め抜本的な制度導入についてどう考えるかのご質問には、藤沢市が従来より市費講師制度、教育相談員制度、介助員制度、巡回教育相談員制度、国際理解協力員、日本語指導員の派遣事業、新入生サポート事業など他市に先んじて市独自の教育施策を実施し、保護者からも評価をいただいております。今後もこうした事業の充実に努めていきたいと考えておりますので、杉並師範館のような制度の実施は考えていないこと、また、現在教育改革のもと学校評議員制度、総括教諭制度の導入など急速に多くの制度が導入されており、学校組織や教育内容を熟知した学校長が求められていることから、民間校長の登用は難しいことなどを答弁いたしました。

次に、要旨 3「市の青少年保護育成条例について」で、市の青少年保護育成条例を制定することについての考え方についてのご質問には、青少年の保護育成が広域的な分野の施策であることから、教育のみならず福祉の観点からも構成されております「神奈川県青少年保護育成条例」をもとに、これからも青少年行政を運営していくため、現時点では市の青少年保護育成条例の制定は考えていないことなどを答弁いたしました。

次に、要旨 4「図書館行政について」で、今後の図書館の執行体制につい

てのご質問には、この4月から始まる専門業務員制度を充実させ、検証していくことなどを答弁し、また、子ども読書活動推進計画についてのご質問には、読書に全く関心のない子どもや保護者にどれだけサポートすることができるか等さまざまな課題を解決していきながら、計画の推進を図っていくことなどを答弁いたしました。

次に、要旨5「平和・人権教育の推進について」で、学校教育では平和や人権をどのようにとらえ、教えているのかについてのご質問には、小学校では思いやりの心を持つこと、人の命を尊重すること、差別や偏見を持つことなく、公正・公平に接すること等を指導し、中学校では個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解すること、集団や社会との関わりを深めることについて指導していることなどを答弁しました。

次に、要旨6「男女共同参画社会政策における教育の弊害について」で、学校教育では男女共同参画のあり方をどのようにとらえ、指導しているのかについてのご質問には、一人ひとりの性別にとらわれずに個性や能力を發揮するとともに、互いの人権を尊重しようとする意欲や態度を育成することを目標に掲げ、指導していることなどを答弁しました。

次に、藤沢市公明党の大塚洋子議員でございますが、「豊かな心を育み湘南の地域文化を発信するまちについて」という件名で、3項目の要旨についてご質問がございました。要旨1「地域と協働した学校運営と教育について」で、学校支援ボランティア事業への支援についてのご質問には、現在、おはようボランティア、学校図書室支援ボランティアなどさまざまな事業を行っておりますが、より一層のボランティア活用推進を図るため、学校のニーズ等を把握し、ボランティアの募集や情報提供を行うなど活用の推進を図り、子どもたちが人と人との関係性を育み、ともに育っていくために地域の教育力を活用し、協働して教育活動を進めていきたいと考えておりますことなどを答弁いたしました。

次に、要旨2「子どもの読書活動環境の充実について」で、ブックスタート事業についてのご質問には、図書館ボランティアを中心に職員と市民の協働体制により、活動マニュアルの作成や研修計画などの具体的な実施方法を検討し、今年11月の開始を予定していますことなどを答弁いたしました。

最後に、要旨3「2007年問題と生涯学習社会の構築について」で、団塊世代が定年を迎える2007年以降の施策展開についてのご質問には、本市の「生涯学習ふじさわプラン」にありますように、「健康の維持増進のための学習機会の充実」や「豊かな人生経験を生かした地域活動への参加・参画」・「世代間交流の促進」を施策として掲げ、これに基づくさまざまな事業展開を図っていききたいと考えておりますことなどを答弁しました。

次に、21社・民CLUBの伊藤喜文議員でございますが、「教育行政について」という件名で、1項目の要旨「学校ビジョンの推進」についてのご質問がございました。「学校教育ふじさわビジョン」を推進していくために、今後さらに力を入れていくべきものは何かとのご質問には、成就感や達成感を味わえるような授業づくり、活動を通して学習への自信や意欲を高める取り組み、自然や社会、他者と関わる体験を通して、自分を大切にしようとする気持ちが持てるよう援助する取り組み、さらには子どもの安全を確保する取り組みなどに力を入れていくことを答弁いたしました。

最後に、日本共産党藤沢市議団の柳沢潤次議員でございますが、「子どもの発達を保障し教育環境の整備を」という件名で、3項目の要旨についてご質問がございました。要旨1「教育基本法改正について」で、その見解を聞きたいとのご質問には、平成15年3月の中央教育審議会答申を受け、現在、政府が法案提出を準備している状況にあり、国段階では第164回国会における首相施政方針演説の中で「教育基本法については、国民的な議論を踏まえ、速やかな改正を目指し、精力的に取り組んでまいります。」と述べておりますことから、教育委員会といたしましても、文部科学省や政府の動向を見守ってまいりたい旨を答弁いたしました。

次に、要旨2「体育館の耐震補強工事の計画的実施を」で、平成19年度からの耐震診断を前倒しできないかとのご質問には、学校施設につきましては、児童生徒が安心して学べる教育施設としての機能だけではなく、災害時には地域の避難施設として地域防災計画でも位置づけられ、市民の安全を確保する重要な施設と認識しており、耐震補強工事を進めるに当たっては、まず校舎を優先し、引き続き体育館の耐震化を進めるよう計画しておりますことなどを答弁いたしました。

次に、要旨3「子どもの学力について」で、国が学力テストを実施することで競争が激化すると思うが考えを聞きたいとのご質問には、文部科学省は児童生徒の学習到達度、理解度の把握・検証、各学校における教育指導の改善充実などを図ることと、義務教育の質の保障のための客観的データを確保することから、全国的な学力調査を実施するとしておりますが、中央教育審議会の報告でも「調査の実施に当たっては、学校間の序列化や過度な競争等につながらないよう十分な配慮が必要である」とありますように、教育委員会としましては、今後の国の動向を見守ってまいりたい旨を答弁いたしました。以上で、平成18年2月藤沢市議会定例会の開催結果についてのご報告を終わりとさせていただきます。

開沼委員長

ただいまの教育長報告につきまして、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

数野委員 英語教育の充実に関連して、小学校に英語教育を導入することについては賛否両論があるが、本市は国語教育との関連をどのように考えていますか。

飯島教育総務部参事 小学校の英語活動、あるいは国際理解教育ということで、本市でも外国人の国際理解協力員が小学校の各クラスに年間2時間程度活動していただいているという状況です。文部科学省でも小学校高学年については、「総合的な学習の時間」で位置づけていくけれども、教科として扱うことはしないという方向が出てきているようです。本市としては子どもたちに正しい日本語あるいは日本語を通して思考する力を育てていきたいと思っています。それと同時に英語あるいは国際理解のための手段として英語に親しむことについては、年間の総時間が決められていますので、学習指導要領の中でやっていく。教育行政としては国語力の向上、国際理解のための外国人の人たちとのふれあいとあわせてやっていきたいと考えております。

数野委員 英語を取り入れることに賛成の方が多いように思うが、一方、基礎学力の国語の時間が少なくなって、その分が英語学習に向けられてアブハチ取らずになりかねないという意見があるので、その辺はどの程度検証しているのですか。

飯島教育総務部参事 生きる力を育むという現行の指導要領の中で「総合的な学習の時間」が確保されたことに伴って、基礎的な教科の時間が削減されているという状況があります。例えば漢字が書けるようになる練習の時間については足りなくなっているという中で、今年度末か来年度初めには改訂された学習指導要領が発表されるという新聞報道の中で、国語、算数、理科については重視をしていくということですので、国語の時間が増えることに期待しております。

小野委員 文部科学省がこれからやろうとしていることについて、藤沢市でも国際理解協力員として英語圏の外国人で現在市内に住んでいる方を5人から6人お願いして、それぞれ学校巡回して外国のいろいろな風習、食べ物等について子どもたちと一緒に話をするなどの国際理解教育を行っております。これは「総合的な学習の時間」の一環としてやっているところが多いと思いますが、子どもたちの外国人への接し方が大人のように身構えないで、ずっと入っていけるというようなことで藤沢市では効果が出てきていると感じております。これから文部科学省はどのような形で英語を取り入れていくのか注目していきたいと思いますが、今のところは藤沢市の方法とそんなに変わらないのではないか。要するに会話ができるまで指導するというような形ではないと考えております。

平岡委員 国際理解協力員として5～6人が学校を巡回しているということですが、外国人講師として英語を教えている先生は何人いらして、増やす方向なのか伺いたいと思います。

飯島教育総務部参事 外国人の英語講師は昨年度は4人でしたが、今年度は2名増員して6人となり、年間1クラスに15時間程度は入れるようにしていきたい。これは昨年度の県の平均ですが、将来的には10名まで増やして行って、2校に1人の講師を派遣し、ネイティブスピーカーによる英語教育の充実を図っていきたくと考えております。

平岡委員 それは中学校の英語ということですか。

飯島教育総務部参事 はい。

平岡委員 教育相談業務について、巡回相談員、カウンセラー、いじめ何でも相談員等いろいろな相談に関わる人たちが、自分の持ち場について相談を受けているが、特別支援教育とも連携できるような体制はあるのでしょうか。

飯島教育総務部参事 派遣あるいはその場所でのというような形です。例えばいじめ何でも相談員は東館に部屋がある。不登校のための相談指導教室は別にあるのですが、そこに巡回相談員がいるということで、日常的な連携は非常に難しい状況です。今後、老朽化している相談指導教室を建て替え、センター的なものの中で相談員をすべてそこに配置をしていきたいという予定でおります。現在は離れた場所にありますので、年3回の関係機関連絡会議の中で情報交換をしている。それから機関をまたいでの相談があります。例えばいじめ何でも相談で不登校の相談が入ると、家にいる状況の中で活動する場所が欲しいということであれば、そこから相談指導教室に連絡が入るといったような形での連携を行っております。

平岡委員 相談指導教室については建て替えの中で新しい方向が出てくることに期待しますが、通常学級でも支援を必要とする子どもを抱えて苦労している先生方が多いという状況から、特別支援教育に対するネットワークまでに広がることを期待します。

開沼委員長 ほかにありませんか。

ないようですので、報告どおり了承することといたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

開沼委員長 これより議事に入ります。

議案第1号 平成18年度教育施設整備に係る工事計画の策定についてを上程いたします。事務局の説明を求めます。

城田教育総務部参事 議案第1号平成18年度教育施設整備に係る工事計画の策定について説明いたします。提案理由は、教育施設の整備を図るため平成18年度における工事の計画を策定する必要によるものです。

工事計画1の小・中学校大規模整備事業の一般計画 (1)小中学校耐震補強事業の①小学校では、鶴南小学校、富士見台小学校、大鋸小学校の耐震補強工事を計画しております。村岡小学校は、耐震補強工事を平成19年度

に予定しておりますが、補強箇所数が多く、夏休み期間では困難なため今年度下準備として庇のはつり等、事前準備工事として改修工事を実施するものです。補強箇所は鶴南小学校4カ所、富士見台小学校19カ所、大鋸小学校14カ所となっております。

②中学校では村岡中学校で、補強箇所は2カ所となっております。

(2) 小中学校大規模改修事業の①御所見小学校については、平成17年度に大規模改修工事が完了いたしましたので、今年度はグラウンド整備と外構を含め改修工事を実施するものです。①の中学校は、六会中学校の大規模改修工事を計画しておりまして、工期は6月議会で承認をいただいた後着工し、平成19年7月末までを予定しております。内容は躯体を残して内外装を一新する改修工事、御所見小学校と同様な工事となります。

2の小・中学校一般整備事業一般計画(1)小学校では、湘南台小学校の外壁塗装工事、俣野小学校のプールサイド改修工事、村岡小学校の屋外体育倉庫改築工事であります。(2)中学校では、大庭中学校のスプリンクラーの改修を含むグラウンド改修工事です。以上です。

開沼委員長 事務局の説明が終わりました。議案第1号につきまして、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

數野委員 今年度の小学校の耐震補強工事は4校ということですが、残りは何校ですか。

城田教育総務部参事 小学校については17校が済んでおりまして、残りは6校です。

數野委員 6校は来年度に完了の計画ですか。

城田教育総務部参事 最終的には平成20年度に終わる予定です。

數野委員 小学校の耐震工事の予算額を見ると、3校は平均的だが、村岡小学校が随分少ないが、どういう補強工事をされるのですか。

城田教育総務部参事 村岡小学校は補強箇所数が大変多いので、今年度は夏休み期間中に庇だけを撤去して来年度に本格的な補強工事をする予定です。

數野委員 トータルでは予算的に同額位になるということですか。

城田教育総務部参事 今年度は庇をはつる工事だけですが、来年度は大鋸小学校と同じ程度の予算を必要といたします。

開沼委員長 ほかにありませんか。

ないようですので、議案第1号は原案どおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

開沼委員長 それでは、議案第1号平成18年度教育施設整備に係る工事計画の策定については、原案どおり決定することといたします。

×××××××××××××××××××××××××××××××××××××××××××

開沼委員長 次に、議案第2号藤沢市青少年相談センター運営協議会委員の委嘱及び任命についてを上程いたします。事務局の説明を求めます。

植木生涯学習部参事 議案第2号藤沢市青少年センター運営協議会委員の委嘱及び任命についてご説明申し上げます。本件につきましては、藤沢市青少年相談センター運営規則に基づき17名の委員で構成する委員のうち、この4月の人事異動によりまして2名の委員に異動が発生したことに伴って委嘱及び任命するものです。氏名は記載のとおりで、任期は2006年4月14日から2007年9月30日までです。以上です。

開沼委員長 事務局の説明が終わりました。議案第2号につきまして、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

特にありませんので、議案第2号は原案どおり決定することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

開沼委員長 それでは、議案第2号藤沢市青少年相談センター運営協議会委員の委嘱及び任命については、原案どおり決定することといたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

開沼委員長 次に、その他に入ります。

(1) 第9回「学習意識調査」報告書について、事務局の説明を求めます。

飯島教育総務部参事 第9回「学習意識調査」報告書—藤沢市立中学校3年生学習意識調査—について、刊行物により説明させていただきます。1. 調査のねらい、2. 調査の方法は記載のとおりです。3. 調査の項目については、40年間継続調査項目が7項目、前回までの追加項目が5項目、新設項目が10項目、計22項目です。前回までの調査の1.5倍ほど調査の分量が増えております。4. 報告書の概要の(1)40年間継続している調査項目の結果と時系列の比較、(2)前回までに追加した調査項目の結果、(3)今回新しく調査した項目の結果、(4)調査項目間のクロス集計の結果、(5)生徒の学習意欲を探るための文章記述の分析結果です。5. 報告書の発行と配布先は記載のとおりです。

それでは、報告書により説明させていただきます。(報告書参照)

23ページ、40年間継続している調査項目の結果と時系列の比較では、帰宅後の勉強時間は、月曜から金曜日まで学校から帰ってどのくらい勉強するかでは、「毎日勉強する」は全体の21%と過去に比べ大きく減少しています。「するときもしないときもある」が大きく増加しています。「するときもしないときもある」という生徒は、どのくらい勉強しているかという、週平均7.8時間程度で、土、日を除いて週5日で1日平均1時間半ぐらいです。土、日については調査しておりませんので把握ができておりません。考察と

しましては、毎日勉強するというスタイルの生徒が減って、1週間を勉強する日と、勉強以外のことをする日と使い分けている生徒が増えており、家庭学習のスタイルの変化が見られると考えております。

24 ページ、学校外での習い事について、学習塾については 68.1%とわずかに増加しています。またスポーツ関係の習い事をしている生徒が増加しています。

25 ページ、学校の勉強の理解度について、前回、前々回に比べよくわかると答えた生徒が増加しています。また前回に比べて「ほとんどわからない」という生徒が減少しています。これまでの調査では約8割の生徒が「わかる」ときもわからないときもある」と答えていましたけれども、今回の調査では、「どちらかというわかる、どちらかというわからない」に対して7割以上の生徒が学校の勉強はわかると答えており、我々にとっては大変うれしい調査結果です。

26 ページ、学校の勉強についていく自信については、「全くない」が大きく減少し、ここ 20 年間で最も少なくなっております。またこれから約7割の生徒が「あるともないとも言えない」と答えていたのを2つに分けてみましたところ、65.5%の生徒が「勉強についていく自信がある」と考えていることがわかりました。

27 ページ、勉強への意欲について、「前回に比べもっと勉強したい」という生徒がわずかに増加しています。「勉強はもうしたくない」が7%近く減少しています。学習の意欲については調査ごとに低下していましたが、意欲の面については変化が見られております。また「いまくらいがちょうどいい」は6%近く増えて、全体の半数を超えております。

28 ページ、勉強への集中度について、「いつも集中できる」はここ 20 年間ほとんど変わらず、「集中できない」は大きく減少しています。また「どちらかという集中できる、どちらかという集中できない」と分けて調べた結果、57.2%が「勉強に集中できない」と考えていることがわかります。

29 ページ、自由への願望について、1990 年から「もっと欲しい」という生徒の割合が減って、「少しほしい」が増えてきております。

32 ページ、追加した調査項目の結果について、学校の中で一番大切に思うことについて尋ねております。「勉強」と答えた生徒は 8.8%とわずかに減少しています。「友達つき合い」を挙げた生徒も減少していますが、7割を超えております。「部活動」はわずかに増加し、1割を超えております。生徒にとっては学校以外に友達つき合いができる場がなくなってきていると考えられます。

学校と塾の比較では、学校は必要である、親友がいる、楽しい、好きなど

ころであるという傾向に変わりはありません。教え方がわかりやすいのは学校と答えている生徒がわずかながら増加したものの、塾というのが7割近くございます。また受験に役立つのは塾という生徒も7割近くあります。

35～36 ページ、勉強の相談相手は友達、兄弟姉妹がわずかながら減少し、学校や塾の先生がわずかずつ増加しています。また勉強以外の相談相手は、友達がわずかに減少し、母親や学校の先生がわずかに増加しております。

38～41 ページ、前回から追加した調査項目の結果では、授業の期待については、多くの生徒が大変期待しているという結果ですが、今回は前回と一部変更して授業タイプの数をも7～9に増やして調査しております。前回と比較して自分たちで課題を見つけ、考えたり調べたりする授業、生徒の意見を受けて入れくれる授業、楽しくリラックスした授業については期待するという生徒が増加し、期待しないが減少しています。また今回つけ加えた将来役立つ知識や技術を身につけられる授業、何を勉強するのか選べる授業は、選択授業を念頭に置いております。学校の外で見学体験できる授業、総合的な学習の時間での授業をある程度念頭に置いております。これについてはいずれも期待するが8割前後いました。

11 ページは、今回新しく調査した項目の結果です。これらの項目は生徒の学習意欲をより詳しく探るためのものです。もっと勉強したいと思うかどうかを尋ねた後に、なぜそう思うのか理由を尋ねました。また勉強についてどのようなイメージを持って回答しているのかを調査しました。過半数の生徒が勉強を受験のための準備、将来役立つ知識や技術を身につけること、学校の授業ととらえて回答していることがわかりました。

43 ページ、さまざまな調査項目をクロス集計した結果です。帰宅後の勉強時間、勉強の意欲等では「毎日する」と答えた生徒に、「もっと勉強したい」という生徒が多く、「ほとんどしない」と答えた生徒は、「勉強はもうしたくない」と答えた生徒が多くなっております。

次に、勉強の意欲と勉強のイメージをクロス集計したものです。「もっと勉強したい」という生徒は、勉強のイメージを割合広くとらえていることがわかります。

52 ページ、成績と先生の期待、家の人の期待のクロス集計です。成績の高い生徒ほど期待されているとこたえている比率が多くなっていきます。また成績と勉強への集中度等をクロス集計した結果については、成績の高い生徒ほど集中できると答えております。

53 ページ、成績と帰宅後の勉強時間のクロス集計では、成績の高い生徒ほど毎日すると答えている比率が高くなっていきます。そして一番成績の低い範囲にいる生徒の40%ぐらいが、ほとんどしていないと答えております。

62～84 ページ、生徒の学習意欲を探るための文章記述の分析結果です。生徒の記述をカテゴリーに分けた上で丹念に読み取っていきました。もっと勉強したいという生徒の理由は、「自分のためになるから」、「今の勉強では足りないから」、「進学や受験のため」などが多く、学習意欲が高いことが読み取れました。「勉強はもうしたくない」という生徒の理由は、「勉強はしたくないから」、「体力的、精神的につらいから」、「自分の将来の役に立たないから」、「やる意味がないから」などが多く、学習意欲が低いと思われる生徒が多いことがよみとれます。また今くらいの勉強がちょうどよいという生徒の理由は、「今の状態が自分に合っているから」、「これ以上はやりたくないから」、精神的、体力的に辛いから、「勉強以外のこともやりたいから」などが多く、学習意欲が高いと思われる生徒も、低いと思われる生徒も両方いました。生徒の書いた理由を1つ1つ丁寧に見ていきますと、「今くらいの勉強がちょうどよい」と答えた生徒の中に意外と学習意欲があり、勉強に頑張っている多くの生徒がいることもわかりました。

76 ページ、生徒の記述から希望する進路と学習意欲との関係を探りました。中学までと考えている生徒はごくわずかでしたけれども、学習の意欲については低いことが読み取れました。高校までと答えた生徒の3割が、勉強はもうしたくないという生徒でした。高校を出ないと就職が難しいと考え、高校までは出たいと考えている傾向があることが読み取れました。大学までと答えた生徒の方が学習意欲が高いと考えられる傾向にありました。しかし、こちらも就職のためと考えている生徒が多いということがわかりました。以上です。

開沼委員長
川島委員

ただいまの説明に対してご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

40年間という長きにわたっての学習意識調査報告書は、藤沢市の教育の指針に係る大事なデータであり、これからの方向性、新しいビジョンができてくると思います。40年前を比較すると経済、文化、教育方針、人口等の社会状況も違う中で、今の子どもは勉強をしないというようなことが言われるけれども、このような調査は他市でもやっているのか、それを比較したことがあるのかどうか。

またこの調査から藤沢市のどういう子ども像が浮かび上がってきたか。そして絶対評価、総合評価の導入がこの意識調査に反映されているのか。また2007年ごろは大学全入時代と言われる中で、ただ学習する時代から自分で創造する方向が見えてきているのかどうか。

それから「おわりに」に書かれている以外に、論文的でないものがあつたらお知らせいただきたいと思います。

松本教育文化センター長 他市町では藤沢市のように長期間にわたってやっているところは

ありませんが、帰宅後の勉強時間について広島県教育センターが行った 16 年度の中 2 の調査データを見たところ、「しない」が 33.5%、「1 日しかやらない」が 15.3%合わせて 50%近くあります。また相模原市の調査でも 24.3% が「やっていない」とあって、なぜかという考察はありませんが、それについては調査をしたいと思います。

また平成 10 年度にベネッセ未来教育センターが行った第 3 回学習基本調査報告書でも「家でほとんど勉強しない」が 23.1%というデータがあります。また文部科学省の平成 16・17 年度義務教育に関する意識調査でも、中 2 で 64.7%、中 3 が 47.7%と、ほかの調査でも中 2 が落ち込んでいます。藤沢市の調査も中 3 については 6 月にやったのですが、ほとんど中 2 に近いデータであると思います。

「学校での友達つきあい」でも平塚市が 16 年度に行って 17 年度に発表したデータでは、「帰宅後遊ぶか」に対して小学 5 年生では「ほとんど遊ばない」が 22%、中 2 では 62.7%で、友達つき合いが学校の場でしかないという裏づけがされると思います。「学校にいて楽しいと感じるのはどういうときか」では、「友達と遊んでいるとき」「友達と話しているとき」が 77%と圧倒的に多く、「クラブ活動のとき」が 48%、その次が「好きな教科の授業」「勉強がわかったとき」となっています。悩みの相談相手も「友達」が一番多く、次が「お母さん」で、父親は低いというデータになっております。

それから横浜国大が行った 3 地区のデータで、「塾へ通っている」の一番多い地区が 72.9%、次が 58.9%、43.4%と、かなりの数になっております。幾つかの他市町のデータからも塾に通っている子の多さ、家庭での学習時間が少ないということから考えて、スタイルが変わってきているのではないかと思います。またベネッセの調査では全入時代を迎えているということが勉強時間が減っている原因としております。

どんな子ども像が考えられるかという点では、数字だけでなく子どもが書いた文章を分析してみて、就職では、自分は保育士になりたいなどしっかり考えている子がいるという実感を持ちました。進学に関しては「勉強をいっぱいやっている」「これ以上やると寝る時間がなくなる」と、自分の思っていることを披露している。また勉強はしたくないけれども、大学へ行きたいのは将来の就職を考えるからと、今の社会情勢の中でしっかり生きていこうとする姿が見える。その反面「どんな授業を望むか」では、「楽しく授業を受けたい」と刻苦勉勵型ではなく、現代子らしい面も感じています。子ども像ということでは詳しく分析しているわけではありませんが、個々にあらわれているデータの中から側面が見えてきております。

それから今回は、総体評価から到達度評価に変わったので、18 項目で調査

したのですが、総体評価のときと今回の調査では比較できないのですが、21ページの考察にもありますが、やる気が出たという生徒が、出てこないという生徒よりも多少多いという感じで、7割の生徒は影響を受けていないと読み取っております。

結果のまとめについては、今回はかなりのボリュームとなりましたが、盛り込めなかったデータ、学校に提示していきたいデータもありますが、学校を誘導するような結論にはなっておりません。今までは学習意欲のところで、もっと勉強したいが減って、もうしたくないが増えるということで意欲が減り続けていることが指摘されていますが、その中に今くらいの勉強がちょうどよいという答えが、ややもすると今ぐらいでいいんだということで、マイナスイメージでとらえられているくらいがあるのではないかと。そこについて細かく生徒の記述を見ることで、今がベストだから今ぐらいでいいんだと答えている子が総体的多いということが見えてまいりましたので、今回、その辺を加えました。

創造性については、難しいご質問ですが、生徒がどのようなタイプの授業を望むかという中で、自分の興味・関心のある授業、将来役立つ知識や技能を含めて総合的な学習等で行っているような学習のスタイルでやっていきたいというところを考えると、創造性に向かう子が多少増えていると考えております。

川島委員

教育を終わった後で、ニートとかフリーターと言われる子どもたちが多いのは、初等教育ではなく社会性に原因があるのではないかとと言われるが、子どもが目的を持たないで勉強するのではなく、もっと連続性のある教育の仕方が問われるのではないかと思うけれども、ニート、フリーターの芽がこの調査から見えるのかどうか。

松本教育文化センター長

ニート等について特別に調査はしておりませんが、報告書 82 ページに、「一応大学までは出ておきたいから」というカテゴリの中で、モラトリアムという視点で「働くのがいやだから・まだ社会に出たくないから」ということで、「高校を卒業した後にすぐ就職する自信がない」「働くのがヤダから」「学生でいた方が楽しいから」と書いている子もおりました。ただ約 3,000 名のうちの 26 名とごく少数です。逆に「親に負担をかけたくない・早く働きたいから」という生徒もおりましたし、モラトリアムという見方からすれば、「まだ将来のことはわからないから」、大学へまで行っているいろいろなことを学べば自分が将来したいことが見つかると思うからという意識を持っている子どもたちもおりました。その辺がデータから拾えた部分です。

川島委員

素晴らしいデータですので、ぜひ藤沢市の教育の発展のために活用していただきたいと思います。

平岡委員 データ分析処理に7ヵ月という短期間で行ったところに大変さがあったとありますが、このくらいの期間で仕上げなければいけない何かがあるのでしょうか。ほかの研究機関のように、その考察などを深めるには1年間ぐらい取れたらいいと思うのですが、その辺はいかがでしょうか。

松本教育文化センター長 この調査はあちこちから注目され、希望も多いことと予算的に冊子を出す関係で1年となりました。またデータの的には前年度に予備調査をして残したい項目が増えた関係で1.5倍のボリュームになりました。ただパーセントということだけでなく丹念に拾っていった関係で時間がかかりました。今後、つくったカテゴリーをコーティングしてそこから選ばせるような方法とか、調査方法の工夫によっては短縮できる可能性もありますが、相模原市はもう少し長いスパンでやっているということと、私どもは今回6月に調査しておりますが、6月の調査ですと、3年生が部活に集中して取り組む時期で、7月、8月に引退試合を抱えた前と、2学期制になりました関係で、調査した時期が中間テストの終わった直後ということで、以前の調査と時期的に変わっているということで、部活を引退した後の10月、11月ぐらいに調査ができれば、また違うデータが得られるかと思えます。調査期間についても次回の調査では検討する必要があるのではないかと考えております。

平岡委員 全国的にも注目されているものですし、藤沢市にとっても財産であると考えます。この報告書は、できれば全中学校、小学校の先生にも見ていただいて、これからの授業の参考にさせていただければと思います。

開沼委員長 この調査報告書から、今後はどのように展開するのかを聞かせていただけたらと思います。

松本教育文化センター長 希望の学校には配りたいと思えますが、ここに盛り込めなかった文書記述を分析した全データを収録したCD-Rを各学校に1部配布していきたいと考えております。それから教育文化センターのホームページにもPDFで全国に見ていただけるように考えております。それからこれはかなりのボリュームですので、概要版を作成中でありまして、概要版は小中学校の全職員に配布したいと考えております。

小野委員 データを見てどうとらえ、どう解釈するかは、それぞれの先生が自分の目の前の子どもたちの実態と照らし合わせながら考えていただくというような形で、特にこのデータからはこういうことが読み取れるとか、こういうことですという結論めいたものは出していないということでいきたいと思えます。小・中それぞれの先生方が校内の意見を聞いたり、グループあるいは教育研究部会で、特定のものを決めてデータを解釈していただいて、これからの藤沢の教育について提言をしていただく。それをもとに、次の学習指導要領改訂の考え方も出てくると思うし、それを加味しながら「学校教育ふじ

さわビジョン」の改訂に向けた作業を進めていきたいと考えています。このときには内部だけではなく、外部の有識者にも協力をいただいて進めていく必要があると考えています。余り拙速に結論を出すのではなく、じっくりと構えていきたいと思っています。

開沼委員長

保護者にもぜひ見ていただきたいと思います。前々回、前回と調査を重ねる毎に分析が細やかで、子どもたちの実態が見えてくるようでした。結果を読んで残念なのは、「先生方がほめてくれない」、「いい成績を取ったときにどういう反応が先生や保護者から返ってきますか」、「勉強の部分でも誰に相談しますか」といったときに、先生への期待度が低いという部分が気になりました。確かに子どもたちの生活全般は、塾という新しい学習機会もあり変化してきています。学校が友達と一緒におしゃべりしたり、授業を通して楽しいということはいいけれども、学びの場であるということからしますと、先生方はこのデータを読んでどういうふうにお感じになるか伺いたいと思います。

それからクロス集計を見て、家族の関わりが見えてきます。そういうところはぜひ保護者の方に見ていただきたい部分で、家庭の中でいろいろ話をしている子どもたちは、勉強とか学ぶというとらえ方の幅が広いとか、意欲的な子どもたちの背景としていろいろな話を家で行っている。そういう場合に父親の参加度が高いとか、貴重なデータが上がってきていると思いますので、あわせて市民の皆様にもわかりやすく見ていただけるようなものにしていただきたいと思います。教育委員会としてこの報告書をもとにどう勉強していくかは、今日のご報告いただいたということで、さらに議論をしていきたいと考えております。

數野委員

今回はサンプルも増えて膨大なデータを分析するのは大変だったと思います。その傾向をどういうふうに取り取って、結果としてまとめていくかは大変な問題だと思います。その結果の評価から、設問を削るとか増やさなければいけないものもあると思います。結論づけるのではなく傾向が出たという意味で報告書を取り上げて、今の時代背景と子どもたち、保護者、先生の考えをどういうふうにとらえていくか、各学校でもう一回検討していただいて、その意見をフィードバックして、さらに細かく検討いただければと思います。この立派な報告書は藤沢市の貴重な財産です。さらに積み重ねてより価値の高い伝統あるものにしていただきたいと思います。

開沼委員長

ほかにありませんか。

ないようですので、報告書については終わります。

×××××××××××××××××××××××××××××××××××××××××××××××××××××××

開沼委員長

次に、(2)平成18年度重要・主要事業の指定について、事務局の説明を

求めます。

小島教育総務部参事 平成 18 年度重要・主要事業の指定について、重要事業のみご説明いたします。重要事業は4月3日市の幹部会議で平成 18 年度の予算等執行方針について示達がされ、その中で重要事業が指定されました。市全体といたしましては、58 事業が指定されており、教育委員会としては 11 事業が指定されております。

それでは、教育総務部が担当しております重要事業の概要を説明いたします。②新入生サポート事業から⑨小中学校校舎改築事業までの 8 本です。②新入生サポート事業につきましては、昨年に引き続き 1 学級 30 人以上の学校に 1 名の市費講師を配置し、30 人以上の学級が 5 学級以上の場合は 2 名の市費講師を配置して、安定した学校生活と教育効果の充実を図ってまいります。

③幼児教育振興事業につきましては、昨年度は主要事業でございましたが、今年度幼稚園の耐震補強経費に対する補助の充実が図られたことから重要事業として指定されたものです。

④国際教育推進事業につきましては、今回新たに重要事業に指定されたもので、国際教育の充実を図るため外国人の英語講師を 2 名増員し、6 名体制として充実させていくものです。

⑤教育情報機器関係事業につきましては、引き続き中学校 5 校に校内 LAN を整備していくものです。

⑥学校安全対策関係事業につきましては、防犯ブザーを新 1 年生に配布するとともに、学校の非常通報システムの充実を進めてまいります。

⑨小中学校校舎改築事業につきましては、第一中学校の改築設計 2 年目と新たに善行小学校改築 1 年目の設計に関する費用を計上させていただいたものです。

⑦と⑧につきましては、議案第 1 号の説明と同じ内容になりますので、省略させていただきます。以上です。

渡邊生涯学習部参事 生涯学習事業関連の重要・主要事業についてご説明いたします。重要事業①学校・家庭・地域連携推進事業は、児童生徒等をめぐる地域課題に対して学校・家庭・地域がどのように連携を図り、対応を図っていくのか、15 の地域協力者会議で話し合い、その解決に向けて地域に即した事業を展開していくものです。特に平成 18 年度につきましては、藤沢市のホームページにこの三者連携事業の概要、それぞれの地域の活動を掲載していく予定です。

⑩長屋門移築復原事業につきましては、渡内にあります福原家の長屋門の文化的価値にかんがみ、移築復原による保存活用を図るため、解体保存調査を実施するもので、今年度は解体保存調査、解体保存工事などを実施するも

のです。なお移築先としましては、新林公園内を予定しております、19年度末の完成を目指すものです。

⑪子ども読書活動推進事業につきましては、平成18年3月に策定されました「藤沢市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもが本に出会い、楽しみ、親しめる機会の提供及び、より豊かな環境の整備を進め、子どもの読書事業活動の推進を図るものです。

続いて、主要事業は6件ありまして、⑫、⑬、⑭、⑮については新規事業ですが、事業概要のとおりですので、省略させていただきます。以上です。

開沼委員長 ただいまの説明に対しまして、ご意見・ご質問がありましたらお願いいたします。

⑯から⑲は新規事業ということですが。

落合教育総務部長 新規事業という意味は、今回新しく主要事業に盛り込んだという意味で、新しく始めたということではありません。

川島委員 防犯ブザーが配布されているが、今までに使われた経緯、あるいは何かの防止になったというような調査をしていますか。

飯島教育総務部参事 昨年度1件、不審者に対して危険を察知して防犯ブザーを鳴らして逃げた以外は、報告されておりません。活用をしないで済む状況だったのではないかと思います。

川島委員 最近、神奈川県内の事件・事故発生箇所マップが地域で見られるようになったということと、昨年までは不審者とか犯罪傾向の事故は秘密事項だったけれども、それとの関係はどうなっているのか伺いたと思います。

飯島教育総務部参事 不審者情報、危険箇所のマップについては、藤沢市でもくらし・まちづくり協会で地域ごとの交通事故発生場所等の一覧をつくっております、それを学校に配布していただいております。ただそれだけでは子どもたちが危険を避けることができませんので、防犯教室を開いて、子どもたちが危険に遭った場合どういうふうに避けるのかといった具体的に話をし、子どもたちに体験をしてもらうというようなことをしております。それから子どもたちの目線で登下校中の公園とか道、狭い路地を見てもらって、どこに危険が潜んでいるのかを地図に落とししていく。これは保護者、先生方と協力しております、昨年は大分進んでおります、今年度は35校の小学校すべてで取り組むようお願いしておりますので、子どもたちが通学路のこういう危険があるということを知覚する機会をつくっていきたく思っております。

川島委員 新入生サポート事業は3年目で予算も多くついているが、今後も継続していくことにより効果が上がっているのかどうか具体的にお聞かせいただきたいと思っております。

- 田中学務課長 新入生サポート事業は17年度から35人以上の学級から30人以上に変えた中で、昨年度のアンケートで35人以上の学級に入っていた内容のもので比較しますと、学級の中でなかなか適応できないお子さんがいるとか、勉強も時間をかけなければわからない子どもたちも30人であろうと35人であろうと同じようにいるといった意味合いから、30人以上に変えた効果等につきましても、同じような意見が寄せられております。今後も30人から、できれば全校配置といった意味合いで充実をしていきたいと考えております。
- 數野委員 数を増やす方向で検討したいという話だが、17年度の予算では1,969万円が今年度は1,924万円と減っているのは、理論的に反すると思うけれども、その点はいかがですか。
- 田中学務課長 数字につきましては、県の制度で1年生、2年生につきましては35人以上の学級については、TTや少人数授業ということでサポート加配といって先生が加配されています。そういうふうに配置された先生方を利用して、例えば小学校1年生の学級が40人の場合は、学級を増やすという形で弾力化は県の方で許されるという制度があります。それを利用する学校が増えてきたといったことで30人以上の学級に配置するものが、学級数が増えますと30人以上の学校が減ってしまう。例えば35人の学校がTTを加配しますと、それがもう1クラス増えますと20何人学級になってしまうわけです。そういった形で18年度におきましては、9学校が1年生の学級増を行っている。1つの学校が2年生で行われているといったことから、30人以上の学校が学級が減ったと、そちらの方で対応したということでございまして、当初からそういった要望等は伺っておりますので、予算におきましても、その学校数を見込んだ予算を要望したということで減額されておるということでございます。
- 數野委員 新入生サポート事業の先生方は臨時でこられていると理解していたが、正規の数が同じであれば予算は減ることはないと思うが、サポート事業の先生を加配した場合は、正規の先生は配置しないということなのか。
- 田中学務課長 例えば35人以上の学級であれば、担任の先生が1人増えてしまいます。県の加配で行っている場合には、弾力化でお願いする場合には担任の先生が1人増えてしまうということでございまして、それはTTや少人数学級で加配された県の先生が増えるわけです。ただその学級をやることによって1クラスの人数が減るということでございます。
- 數野委員 クラスが増えれば各クラスの子どもたちが減るのは理解できるが。
- 田中学務課長 減らない学校もあります。学級数がもともと多い学校については、1クラス増やしても35人以上の学級になる学校もあるわけです。そういったことから、ただ単に学級数を増やしたから対象の学級が減るとは一概には言えな

い部分がございます。昨年度 25 校に対して 27 名配置していたのですけれども、18 年度にスタートしましたのは 22 校で 26 名のサポート講師を配置しているということでございます。

數野委員 昨年までは 35 人以上にサポート講師が 1 人ついて、今年度からは 30 人以上のところは 1 人つくということだと、30 人以下の学級が増えたからサポート講師の数が減ったために予算も減少したということですね。

田中学務課長 はい。

開沼委員長 国際教育推進事業について、外国人講師による学習の展開に目が向いてしまいがちですけれども、外国籍の子どもたちが学校にスムーズに適応して、のびのびと一緒に勉強できるという環境が日本人の国際理解につながっていくのではないかと考えておりますので、適応というところをぜひお願いしたいと思います。

予算が少ない中で子ども読書活動推進事業では、どういったことを中心に計画されているのか。改めて伺いたしたいと思います。

武生涯学習部参事 子ども読書活動推進事業については多方面からやっていきたいと思いますが、お金が多少ついたのがブックスタートで、11 月から実施される予定です。これにはボランティアにもお願いとか研修をやっていきますが、1 つ良かったと思うのは、児童福祉課や市民健康課といった福祉の部とボランティアと連携しながら子育て支援の発想も持ちながらやっていく中で、いろいろ広がっていく。もちろん保護者と子どもとのふれあい、ゆとりの関係と読書以前の基本をつくりながら、ステップアップして発達段階に応じた読書につなげていくといった副産物も期待できるのではないかと考えております。

また今回の子ども読書に関してのパブリックコメントが多かったのは、学校図書館の充実です。学校図書室支援ボランティアもありますし、また学校のあり方、学校図書室の運営のあり方もありますし、それに対して公共図書館とどういうふうに関連するのか、我々としてどういうふうなお手伝いができるのか、ボランティアさんのお手伝いができるのか、もう一度見直して話し合っ、しっかり見据えて、できることから進めていきたいし、相談についてもぜひやっていきたい。また 4 月に入りまして、市内の幼稚園、保育園も含めて図書館としてこんなお手伝いができますというふうな PR もしながら連携していきたいと思っています。それから家族向け、団体向けに何の本を読んだらいいのか、乳幼児にどんな本が喜ばれるのか、楽しい感じにつくって配布したい。また図書館の課題としては従来読み聞かせ、お話し会は非常に充実して活発に行っていたのですけれども、もう少しブックトークといいますか、この本を読みたいと思う分野における読書の紹介なども取り入れながら、一度にたくさんはできませんけれども、整理をしながら

ろいろなところと連携しながら進めていきたいと思っております。

開沼委員長

三者連携事業をホームページにアップするというについては、よろしくお願いたします。できるだけ情報を外に発信していただきたいと思いません。

重要事業とはちょっと離れるのですが、教育委員会として定例会の議事録はホームページにアップしていますが、そのほかにも社会教育委員会、青少年問題協議会、図書の関係、芸術文化の関係等の委員会が、藤沢市の生涯学習についてさまざまな議論を重ねて計画づくりをしています。ぜひそういった会議の議事録もアップしていただけると、ますます市民の皆様はどういう形で生涯学習が動いていっているのか、どういう問題を取り上げて議論しているのかが目に見える形になると思いますので、さらに会議録の情報公開を進めていただければと思いますので、ご検討いただきたいと思いません。

ほかにありませんか。

ありませんので、本件については了承することといたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

開沼委員長

以上で、本日予定いたしました公開で審議する案件はすべて終了いたしました。

それでは、次回の定例会の期日を決めたいと思いません。5月12日（金）午後2時から、場所は東館2階教育委員会会議室において開催ということでいかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

開沼委員長

それでは、次回の定例会は5月12日（金）午後2時から、場所は東館2階教育委員会会議室において開催いたします。

以上で、本日の公開による審議の日程はすべて終了いたしました。

午後4時05分 休憩

この会議の結果を記載し、相違ないことを確認する。

藤沢市教育委員会委員長

藤沢市教育委員会委員

藤沢市教育委員会委員